

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	現代社会 A	
科目基礎情報							
科目番号	51004			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	経営情報学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	前期:4		
教科書/教材	「高等学校改訂版 新現代社会」(第一学習社)、「新版テーマ別資料 クローズアップ現代社会2020」(第一学習社)						
担当教員	岩元 修一, 瀨本 千恵子, 小川 泰治, 菊池 達也						
到達目標							
①環境、資源・エネルギー、科学技術について、現代社会が抱える問題点とその対応策について説明できる。また青年期にはどのような課題があり、何をすべきか説明できる。 ②日本が法の支配する国家であることを説明できる。 ③日本国憲法について国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限のレベルの目安(可)		未到達レベルの目安
評価項目1	環境、資源・エネルギー、科学技術について、現代社会が抱える問題点とその対応策を論理的かつ詳細に説明できる。また青年期にはどのような課題があり、何をすべきかを論理的かつ詳細に説明できる。		環境、資源・エネルギー、科学技術について、現代社会が抱える問題点とその対応策を論理的に説明できる。また青年期にはどのような課題があり、何をすべきか論理的に説明できる。		環境、資源・エネルギー、科学技術について、現代社会が抱える問題点とその対応策を説明できる。また青年期にはどのような課題があり、何をすべきか説明できる。		環境、資源・エネルギー、科学技術について、現代社会が抱える問題点とその対応策を説明できない。また青年期にはどのような課題があり、何をすべきか説明できない。
評価項目2	人の支配から法の支配への変遷と、その動きに影響を与えた思想について詳細に説明できる。		人の支配から法の支配への変遷と、その動きに影響を与えた思想について一通りの説明ができる。		人の支配から法の支配への変遷と、その動きに影響を与えた思想について簡単な説明ができる。		人の支配から法の支配への変遷と、その動きに影響を与えた思想について説明ができない。
評価項目3	日本国憲法について国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から論理的かつ詳細に説明できる。		日本国憲法について国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から論理的に説明できる。		日本国憲法について国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から説明できる。		日本国憲法について国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から説明できない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義は、高専5年間で学習する社会科諸科目の導入的な役割も担っている。そのため、1つのテーマについて深く掘り下げていくよりも、現代社会の抱える様々な問題について幅広く確認することを目的としている。						
授業の進め方・方法	配布プリントを利用しながら講義形式で授業を進める。理解度を確認するため授業中に小テストを実施する。講義はパワーポイント資料を中心としたオンデマンド講義である。複数の社会科教員が担当するため、単元によって教員が入れ替わることがある。						
注意点	前回の授業で話した内容が次の時間にもつながるケースが多いので、授業にのぞむ前に復習をしっかりとやってほしい。また授業では教員が話すことを聞くだけでなく積極的に発言してもらいたい。ただし授業に関係のない私語は厳禁。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			シラバスの内容を説明できる。	
		2週	地球環境問題			どのような地球環境問題があり、以下に対応しているかについて説明できる。	
		3週	資源・エネルギー問題			日本の利用しているエネルギー資源およびそれをめぐる取り組みや問題点について説明できる。	
		4週	科学技術の発展と私たちの生活			科学技術の発展によって、私たちの生活や生死についての考え方がどのように変わったかを説明できる。	
		5週	高度情報社会と私たちの生活			情報技術の発展が、私たちの生活にどのような影響を及ぼしたか、その利便性と危険性を説明できる。	
		6週	青年期と自己の形成 (1)			人生の中で、高専1年生がどのような時期であり、またどのような課題があつて、何をこなす必要があるかを説明できる。	
		7週	青年期と自己の形成 (2)			人生の中で、高専1年生がどのような時期であり、またどのような課題があつて、何をこなす必要があるかを説明できる。	
		8週	中間小テスト			前半の内容を整理する。	
	2ndQ	9週	国家と法の支配 (1)			人の支配から法の支配への移り変わりを、歴史的事実をふまえて説明できる。	
		10週	国家と法の支配 (2)			市民革命に影響を与えた思想、現代の憲法の基本となっている考え方を説明できる。	
		11週	日本国憲法の基本原理と平和主義			どのようにして日本国憲法が制定されたのかを説明できる。日本の平和主義について考察できる。	
		12週	基本的人権の尊重			日本でどのような人権が認められているかを説明できる。	
		13週	国民主権 (1) —国会・内閣・裁判所—			国民主権を守るためになされている工夫を説明できる。	
		14週	国民主権 (2) —国民の政治参加—			国民がどのように政治に参加できるかを説明できる。日本の政治にはどのような課題があるかを考察できる。	
		15週	期末小テスト			後半の内容を整理する。	
		16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。		3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		1	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		1	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。		3	
			現代社会の 考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。		3	
評価割合							
	試験	期末小テスト	中間小テスト	小テスト	態度	その他	合計
総合評価割合	0	35	35	20	10	0	100
基礎的能力	0	35	35	20	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0